

公民館だより

由良地区
公民館

冠婚葬祭の簡素化について

館長 四方寿朗

5/3/1

昭和50年度 第3号

昨年控の結婚式に招かれた時の事だ。披露の席で何か話せとの事だった。ところが私の番になると「お色直しとかで、新郎も新婦も席を外してしまつた。準備したスピーチなどはどうにも格好がつかず、下手な歌でその場をつくらつた。客に祝詞を頼んでおきながら、何たる無礼と腹が立つた。自分自身に取柄のない者程外観を飾りたがる。しかもそれが高い料金を払つての衣装だとは。色直し本来の意味はもつと別なところにあつたに違いない。これは世間並みという事で、人間の弱味につけこむ業者に踊らされての無駄使いの最たるものだ。

私は冠婚葬祭の簡素化に大賛成だ。幸い由良では十数年前の新生活運動推進協議会の申し合わせが比較的よく守られてゐる。しかし改善すべき点はたくさんある。何より大切な事は、それらの儀式なりしきたり本来の意義を、原点に帰つて考へてみる事だ。例へば葬式というものは、一屍を葬る。二故人の霊を慰める。三家族や知人との別れの儀式である。断ち難い肉親との別離の情、その基となるのは故人に対する愛情であり、人間尊重の精神である。立派な葬式とは豪華な祭壇や並べられた花輪の教で決まるものではない。生

(2)

なろうとしないこと。これが地区の運命ともしものだ。私たち自身の智恵で私たちの由良を住みよいところにしよう。

葬儀の簡素化へのとりくみ

婦人会長 小松圭伊子

深刻な不況の中での公共料金はじめ物価の値上りが更に私達の生活をおびやかしている現在、年毎に派手になつていく生活をもう一度見つめ直して、生活の簡素化や合理化をすすめるよう、と、市婦連では一昨年からこの不用品交換会に引続き、本年は自治会や公民館にも働きかけ、みんなが守れることから、と見直し、香奠返し葬儀の簡素化合理化について、宮津市全体の実践運動をしようと申し合せ、新聞紙上や市広報にも取上げられました。

これに基いて由良婦人会でも、中西自治会長様や、四方公民館長様に申し入れをし、全面的にバックアップを約束して頂きました。

幸い由良地区では、先人の方々の並々な御努力により、他地区とは並べようのないほど葬儀は簡素化されております。しかし、お色直しの話し合い、婦人会での話し合い、公民館での話し合いを重ねて予習していただくうちに、相当無駄と思われる面も浮び上がってきました。昔から日本には「むす花を咲かすとか、無駄の効用」とか、実を結はぬことわかつて居りながら、あえてするといういわゆる恰好のよさをよしとする風があり、上は政治家からヤクザの世界に至るまで

前は親の世話をろくにせず、死後葬式ばかり派手にするのは本来転倒である。私に忘れられない一つの思い出がある。病状の急変であつた息を引き取つた夫を前に、「せめて今夜は一緒に寝てやりなさい」と、往診に駆けつけた自分にそう告げた素朴な婦人の一言に、私は胸の熱くなるような感動を覚えた。これこそ本当に心

最近お年寄りの往診依頼がふえた。中には家族の思いやり不足による老人の欲求不満の代償として、身体症状を訴えている場合もある。生前も心をこめた看病をし、名残を惜む多くの人があつて葬式も盛大になるのなら理解出来る。見栄や世間体をつくらうたの葬儀のやり方は許せな。又葬式料理の献立が十年一日どころか、五十年昔と殆んど変わらないという話も聞いた。簡素化と同時に現在の時代に即した諸行事の合理化も忘れてはならない。去年かつこう世間をみ」の安易な操返しは考えなすべきた。そして周囲もこれに協力してほしい。

冗費の節約を「ケチ」と非難されるのを気にする声もある。そこで虫のよい提案をした。この三月末で現在公民館となつてゐるカトリック教会の借用期限が切れる。公民館活動は容れ物でなく中味が大切だといえ、やはり拠点となる建物が必要だ。節約した経費の一部を公民館建設資金として御寄付願えれば、地区の人々に申訳もたし、一石二鳥である。要するに諸事本来の意義を考へ、形式にとらわれず無駄をはぶき、心のこもつた合理的な慣習をみんなが考へ、納得の上実行したいものだ。自分だけヨイ子に

風靡していきます。

すべてお金ですむことならばと何でも金でケリをつけるという最近の風潮は、それによつて生ずる内戦その他での体の酷使、精神の荒廃、子供への影響などを考へるとき、家庭を預り家族の健康を預つてゐる主婦こそ、生活面の無駄をはぶき合理化を図るのに、一番心をくたく必要があると思われま。もとより葬儀の簡素化を叫んでも、葬儀本来の意味するものや死者への追悼をおろそかにするものは決してありません。すかこの話し合いは、それを基調にしておりません。私共の願うことは現在以上に派手になりません。人の思惑を気にせず正しいと思ふことは実行すること。無駄を省き合理化することによつて生ずるやさやかなゆとりを大切に育て上げ、うるおいのある家庭を作ることなどを結論とし、皆様方の御協力を望みといたします。

合理化運動に御協力を

婦人会 小室三三子

私達地域婦人会の活動もその時代に即した学習と実践によつて、いろいろの問題を取り上げ、それに真剣にとり組んでまいりました。その中で冠婚葬祭の合理化、簡素化運動を昨年より提唱し、それを実践にうつすことを決意いたしました。幸い由良地区は宮津市の他の地域にくらべて自治会、公民館、婦人会の各連の御努力によりまして、いくつかの問題が簡素化されて参りました。それがだんくと前へゆく傾向にあり、

市の婦人大会で決議されました事を契機といたしまして、もう一度考へ直つて直して見たいと思ひます。この事に關して先日宮本地区のろは懇話会におきまして、蒸儀の簡素化問題と取り上げ沢山の貴重な御意見が出され居りました。婦人会でもこの問題について熱心に話し合いました。その事につきまして少しここに掲げてみたいと思ひます。

○献立について
献立は従来のものからたん／＼汎手になりつゝ、ありランチ皿以外にも出される傾向になつてきた。ランチ皿の精進料理をもつと食べやすい方法にするか、合理的な献立に切りかえ、簡素にすべくせつかく常備した皿が手がつけられず持つて帰る様なことはなくしたい。

○ある地区はランチ皿がない為料理もたん／＼汎手になりつゝ、あり後付米も大変なのランチ皿を購入して欲しい。

○砂糖は二袋とし紙包みに統一して欲しい。

○通夜、遠花に出すものはお菓子程度にしたい。

○後付状は以前は由良内は配らなかつたが、この頃は配られて居る。これを簡素化してはどうか。又香奠をいたいた御礼があるから配つた方がよいと二つの意見が出されて居ります。

○初盆の供花について
○初盆の供花は後付米の事も考へ合せ一本にしてはどうか
◎見舞返しについて

(4)

その様子は赤ん坊が母親のオツパイを飲んで居るようであつた。

軍艦由良は、三本煙突の格好良い軽巡洋艦で、阿武隈、長良と共に三隻で第一艦隊第三艦隊を形成して居た。排水量五五〇〇屯である。現在の自衛艦の旗艦が二〇〇〇屯であるのを見てもその大きさがわかる。由良艦が沖に仮泊すると海軍組員が上陸し、守護神である由良神社に参拝した。そして紅台にわかれ相撲や銃剣術の試合を見せられた。海軍の軍人さんは相撲が強い。筋肉隆々たる体躯ですもうするさまは見事であつた。小学生は六のうな歌をうたい、旗を振つて出迎へた。

(二) 三三三歌詞は忘れたが、排水五五〇〇の屯と言う文句がある。

由良の人達は決別から海軍のカッターに束せて由良艦まで運んで貰つた。何しろ全速力で走るのだから波除けの覆を船全体にかぶせて外は見えない。由良艦の上るとラムネと御馳走になつたり、橋立まで動いて貰つたりした。由良艦の乗組員と村民が一体となつて交流した。由良小学校の生徒は慰問文を由良艦の乗組員に送つた。

由良艦の艦長は大佐であつたが、豊田副武氏も一時由良艦長をこころした。(後の連合艦隊司令長官) 豊田艦長の書の軸は由良神社に奉納され、現在今城宮司が保存されて居ると言う話がある。夜になり、浜から沖合を見ると各艦のイルミネーション

○全焼が望ましいが全焼が出来なければ心ばかりの品にし、形式はつた物はやめにする。宮津市の他の地域では、見舞返しについては大体守られて居ると聞いて居ります。公民館のアンケートによりますと、大多数が全焼を望んで居られるにもか、わづら守られにくいや、貴重な御意見が又山出て居りました。今後、自治会、公民館、婦人会が一体となつてこの問題につきましても、こゝで考へねばならない事はたゞまやみに簡素化する事はなく、古くからのよき習慣を守りながら今の時代に即応した合理的な方法も考へ合せ、この運動を進めていかねばならないと思ひます。教しく教しい社会情勢の中で、これにおほれることなく皆んなが力を合せ互いに助けあひながら、よりよい豊かな暮らしが出来ますことを切望いたして居ります。どうぞ皆様方この運動によりしく御協力を賜ります様お願い申し上げます。

思い出し(一)

軍艦由良と連合艦隊

中西 茂

大平洋戦争が始まる前までは、毎年九月上旬に連合艦隊が舞鶴軍港に入港した。艦隊五百隻の大艦隊で、その内、戦艦、航空母艦、重巡洋艦、巡洋艦等は吃水が深いので舞鶴に入港出来ず、由良沖に停泊した。一方栗田海軍少将は潜水艦が停泊して居り、時々舞鶴沖に停泊して居る大きな潜水母艦から給油を受けたいが

ンが一せいに輝やいて、大津市の夜景を見るようであつた。又昼間遠くから見ると、航空母艦はたいへん浮いたようであつた。

これらの軍艦を見るために、大敷網の漁船が、希望者から金をとつて沖合に連れて行つた。私も一度乗せて貰つたが、沖合に出ると戦艦や航空母艦がすぐそばに見えて、いとも、漕いでゆくと仲々遠い。何しろ艦長三〇の米重量が三五〇〇の屯もあるのだから、航空母艦の山城の中には東京駅がすっぽり入ると言う程大きなものであつた。戦艦は艦首に金色の菊の御紋が着いて居り、艦尾には「なかと」と打つて居つてあつた。私達は日向を覚えて貰つた。これも戦艦の三万七以上ある。巨砲を何門も備付けてあり、艦分大きな軍艦であつた。類物な下士官が隅々まで案内してくれられた。駆逐艦は船腹に「うすくも」ゆつたちと書いてあり、速力も速く、白波を切つて走つて居た。(大体一五〇の屯位である)

面白い話がある。村の人達が一升瓶に水を入れ、五本提げて軍艦見物に漕いで行つた。軍艦では水が貴重品である。或る大きな軍艦の下に来ると、上れと言ふ。土産の一升瓶の水をわたすと上品な士官が案内してくれられた。この軍艦は孫名と言つた戦艦で、案内してくださつたのは高松宮殿下であつた。一回は一回いつくりに全くと絡したと噂であつた。一週間ほどすると連合艦隊は去つて行つた。

四十九年九月私は海上自衛隊の若狭湾での観艦式を見せ貰つたが、昔の軍艦を知る私には全く小規模で頼りないものであつた。連合艦隊は由良の年配の

方にはなつかしい思い出である。

新刊図書入荷のおしらせ 文化部

文化部では昭和五十年年度分として左記の図書を購入しました。他にもたくさんあります。読書は脳細胞の働きを高め、何よりも頭の老化を防ぎます。自分ではテレビの前には坐りつばなし、子供にはかり勉強をすすめるのは、少し虫がよすぎます。公民館図書貸出しをせいく御利用下さい。

- 空海の風景 上下、 復合汚染 上下、
 - 鬼たちの声、 黒の回廊
 - 冬の火花、 乱世流転記
 - スピリタと会話の百科、 袋もの全書
 - 千代紙細工二十ヶ月、 お灸の研究
 - 健康マラソン入門、 続 親の顔が見たい
 - おぼあちやんの知恵、 刺しゅうと子世帯
 - 子どもからの自立、 絶望からの出発
- 以上

最近公民館の役員会でも無届欠席が目立つ。こんなことを記事にしなければならぬのは誠に残念だ。裏面に由良での申し合わせ事項を掲げ、みなさんの御協力をお願いする。

裏面を見て下さい



編集後記 (五一三三)

◎本号は生活合理化運動の特集となった。宮本の「おぼあちやんの懇談会」で「葬式の料理や献立の権限を隣組班長に任せ、家の者は一切口出ししない」ということに決めてはどうか」との意見が出た。なるほど、こうすれば申し合わせは守られるだろう。みなさんの御意見を聞かせ下さい。

◎この一ヶ月、ロッキードの黒い霧が日本中をわかせた。それにしても日本とアメリカの議会での証言のくい違い。個人の義理や会社への忠誠が、公義に優先する日本。真相の究明に何のためらいもない神の国アメリカと、無宗教に等しい日本。自からの血を流してがち取り、二〇〇年の伝統を持つアメリカ民主主義、天下りに与えられ三〇年しか経っていない日本のそれ。情けないやう腹が立つやう。テレビの「遠山の金さん」は物語りか。それにしても、或る意味で「毒にさへ思われたのは喉間された証人たち。この後びたぐみに糸をあやつって、正体を見せぬ怪物がにくらしり。

◎近頃の日本のように一見平和で最低限食べるだけには困らなくなると、我々はとかく政治は無関心になりやすい。すると国の運命は、極く少数の官僚と大企業のエリート達によつて支配される。という話を聞いたの通り。我々は主権在民という民主主義の大原則を、いかなる場合にも忘れてはならない。

◎身を切られる思いの河口での砂採取が道んでいる。今後は国費で採取した砂はすべて浜へ還元すること。浜の浸食防止工事の促進を皆んなの協力で実現しよう。

由良地区 申し合わせ事項

佛事の簡素化

- 一、葬式忌明け初七日の行事は、葬式当日がぎりとする
- 二、食事は当日食べられる程度とする
- 三、焼物は砂糖二袋を限度とする

見舞返し

見舞返しは全廃する

時間厳守

- 一、会合の時刻に遅れないようにする
- 二、欠席、遅刻は必ず事前に届出る
- 三、遅刻者にかまわず、定刻に開会する